

どっかい生きてます!

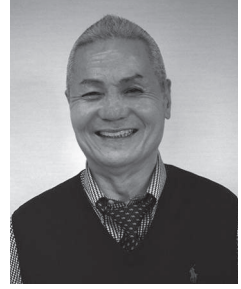


実りの秋を迎え、農業隊メンバーがこのほど潮騒水田でコンバインによる稲刈り作業を行いました。夏場に続いた異常高温で作柄が心配されましたが、適切な水管理などに努め今年も豊作となりました。自給自足をモットーに潮騒では、就労支援としての水田農業の取り組みに力を入れています。これに付随して、新規事業として力を入れる納豆用の稲わら作りも本格化しています。(6ページに記事)

2018

9

大規模化による 潮騒の多忙な日常を 乗り越えて



今夏の灼熱地獄からやっと解放されたと思ったら、今度は大型台風の連続襲来や北海道では震度7の大地震。被災者ならずとも「この国には神も仏もないのか!」と叫びたくなります。そんななかでも季節は確実に移ろい、本格的な秋を迎えました。潮騒にとっては稲刈りやサツマイモ収穫などに追われながら、秋季イベントへの対応で最も忙しい時期です。施設職員はもとより農業隊やスタッフを中心に、潮騒の仲間達が頑張って準備に取りかかっています。まず10月8日(月・祝日)には、関係者の支援を得て潮騒が主催する「リカバリー・パレード『回復の祭典』in 鹿嶋」に取り組みます(同封のカラー刷りチラシ参照)。昨年は潮騒フォーラムとドッキングさせて試行的に実施しましたが、第2回の今年は地の利を生かして霊験あらたかな鹿島神宮参拝や鎮守の杜の散策をコース日程に取り入れ、潮騒型のリカバレを模索します。開催日が目前に迫りました。どうか皆さん、初秋の鹿嶋路と一緒にパレードしましょう。実施日が当初の7日から翌8日(体育の日)変更になりましたので、ご注意ください。

さらに10月下旬には鹿嶋市のビッグイベント「鹿嶋祭り2018」が、そして11月初旬には「第12回て〜ら祭」(鹿嶋市まちづくり市民センター祭)と大型のイベントが続ぎ、12月2日(日)には施設にとって最大行事の潮騒JTC13周年フォーラム(会場:鹿嶋勤労文化会館)と続きます。潮騒フォーラムは、公開討論会やメッセージが主体のダルクフォーラムとは趣が異なり、仲間たちが楽しめる娯楽的な要素が強いのが特徴です。今年は歌と踊りで会場のみなさまと一体になって弾けようと、いつもの連合エイサー演舞に加えて、潮騒支援のチャリティー歌謡ステージで盛り上げます。潮騒の地元支援者の尽力により、依存症に理解を示すプロ歌手3人、昭和の名曲「バス・ストップ」の平浩二さん、地元鹿嶋出身の演歌歌手・幡千恵子さん、潮騒音楽プログラム講師の川島有紀さんが手弁当で出演します。これに元芸能人で異色の回復者、マーシー(田代まさし)が絡むサプライズ企画も盛り込む予定です。地元の歌謡ファンのみなさま、当日はぜひ会場に足をお運びください。

さて、ここからは少しだけ弱音を吐かせてください。60歳から依存症の回復をスタートさせた遅咲き人生の私ですが、施設の大規模化に伴い多忙化に拍車がかかっています。実年齢には逆らえず、体のあちこちにガタがきて、精神的にもきつくなりました。少しずつバトンタッチをしています。対外的な交渉は代表の私が出向かないと埒が明かない場面が多く、仕事量の多さには正直苦しんでいます。夜間高校の授業もあり、一日が終わるころは疲労感でいっぱいです。締め括りの日課である黙想と祈りの時間には「この試練にいつまで耐えられるだろうか...」とつい弱気になります。それでも潮騒の仲間たち一人ひとりの顔が浮かんで、「命ある限り走り続けよう!」と前向きなエネルギーが湧いてくるから不思議です。アディクトには高齢化の人生をどう生きるかの手本がないだけに、私は自分の健康状態と相談しながら行ける所まで行こうと思います。(センター長 栗原 豊)



奇跡的な回復を遂げたイトさんが百寿を卒業

人にはそれぞれ人生のドラマがありますが、私が代表を務める潮騒JTCの関連施設、高齢者介護デイサービス「百寿」で再会したイト（本名・糸魚川智彦）さんとのドラマは、とても感動的で素晴らしいものでした。奇跡という言葉は綺麗で良い言葉ですが、なかなか目の前で起こったりするものではありません。ですが、今回の出来事はまさに奇跡だと感じております。

イトさんは3回目の入寮でした。イトさんは身の周りのことは自分でできている方でしたが、再会したイトさんは全くの別人でした。車いすで、しかも左腕の骨が変形し、しゃべることもままならない厳しい状況でした。介護認定を取得していたので百寿での生活が始まりましたが、ほぼ全介助の状況にあり、骨折が治っていないのでベッドから車いすへの移乗介護も一苦勞でした。食事も思うように取れず、体重は40キロ前後、入院した際は命の危険を伝えられたこともあり、正直なところ私は「昔のイトさんに戻れるだろうか…」と不安でした。でも、本人は希望を捨てませんでした。イトさんの懸命な努力が奇跡を呼び起こし、なんと退院の運びとなりました。

そして、そこからが回復ドラマの始まりです。まず食事が食べられるようになり、ペースト食から刻み食、今では常食です。言語も日に日に力強くなり、もはや私の知っている昔のイトさんそのものです。日に日に体重も増え、腕の変形は治らないものの、骨折は完治し痛みもなくなって動くようになりました。残るは歩行です。本人の希望は自立してトイレに行くこと、歩けるようになることで、職員と一緒に立つことから始めました。リハビリ中は転倒

したり、顔に擦り傷をつくったり、職員とも口論になりました。色々なことがありましたが、イトさんは諦めませんでした。今ではトランクスで何の問題もありません。その努力の結果が今回の奇跡だと、私は思います。

「当事者の回復を諦めてはいけない」。介護者の私達職員が忘れてはならない気持ちを、今回の“奇跡”の出来事を通して百寿職員はイトさんに教わりました。百寿卒業式の日、本人の笑顔はとても素晴らしく、その場にいたみなさんに希望を与えてくれました。今後は潮騒に戻って生活が始まりますが、イトさんには健康で人生を楽しんでほしいと思います。百寿の記憶からイトさんが消えることはないです。イトさんの記憶にも、百寿という居場所が残る続けることを切に願います。イトさん、今回の奇跡をありがとう！（マコト）

私もどっこい生きています 百寿の助けて今の自分がある

「私は病院からデイサービス百寿に来ました。その当時は車椅子での生活でしたが、今は身体全体の調子もよく歩く事も出来るようになりました。病院の先生はもう、歩くことは出来ないものだと考え、潮騒に送ったと思いますが、私は『どっこい生きています』。今は出来るだけ早く新宿へ帰って仕事をしたいです。百寿のスタッフの皆様は助けて頂いて、今の自分が在ります。その事を心にとめて頑張りたいと思います。他の仲間達も一生懸命に生き、今日一日を大切にしましょう」（イト）



潮騒エイサー隊 初参加 「三線の花」や「ミルクムナリ」の演舞で観客を魅了

全国から集まったダンスチームが神栖市で舞う恒例の舞踊祭典「第9回かみす舞(ぶ)っちゃげ祭り」が15、16の両日、神栖中央公園を舞台に華やかに繰り広げられ、初参加した潮騒エイサー隊「鹿嶋琉球太鼓」の仲間たちが祭典に華を添えて会場を盛り上げました。祭りには北海道などから駆けつけた招待チームのほか、県内や関東などのダンスグループ計63チームが参加。前夜祭の15日はあいにくの雨模様でしたが昼過ぎには雨もあがり、お揃いの色鮮やかな衣装に着飾った男女約2000人の踊り手たちが、メイン会場の特設ステージと2カ所のパレード会場で躍動感あふれる演舞を披露し、訪れた約7万人の観客が大音響と群舞を楽しみました。

「舞っちゃげ祭り」は、神栖地域の方言で「壊す」「心を開く」などを意味する「ぶっちゃげ」から名付け、地域の融和と活性化を目的に2010年にスタート。ブームだった「よさこいソーラン」で青少年の健全育成化を図ろうと、地元によさこいチームを作ったのがきっかけです。今ではフラダンスやチアダンス、ヒップホップのストリートダンスチームも参加しています。

今回が初参加のエイサー隊は約2カ月前から強化練習をして技を磨き、日頃の成果を披露しました。沖縄ダルクにいた本場のエイサーを知る仲間の入寮をきっかけに、エイサープログラムとして約5年前に再出発しまし

た。しかし、スタート直前になって指導するはずの仲間が突然自主退寮し、プログラムがとん挫するハプニングになりました。意欲的にプログラムに取り組もうと手を挙げた仲間たちはエイサーを続けることを決め、DVDなどを見ながら踊りを覚えて研究を重ね、今では創作のエイサーを披露するまでになりました。メンバーは現在男性8人と、今年6月に女性だけのチーム名を「ナチュ」とした女性6人の男女混合編成です。週2回の練習を重ねながら仲間意識を育て、団結力を養っています。「ナチュ」のリーダー・めいさんは「踊る達成感や楽しさでこれからも頑張ります」と話しています。

出場したメンバーはエイサーの衣装に着替えて太鼓や幟旗を持ち、両日合わせて5回の演舞を披露しました。メインステージでは勇壮な「ダイナミック琉球」で一糸乱れぬ太鼓を叩き、パレード会場では沖縄県石垣市出身のビギンのヒット曲「三線の花」に合わせたエイサー、豊年踊りを意味するという「ミルクムナリ」ではオリジナルの創作エイサーで見事なバチさばきで観客を魅了し、会場からは「素晴らしい」「日本一」などの声が掛けられました。チームリーダーのヒトシさんは「野外で踊る今年一番の大舞台。見られているという意識も働き、気持ちよくやり切りました」と話し、12月2日に開く潮騒13周年フォーラムに向けた更なる練習に取り組む意欲をみせていました。(岩)

めい
感想文**沿道から「良かったよ」「凄いね」
の声に泣きそうに…**

エイサー隊にエントリーされたのは数ヶ月前。その話を聞いたとき、私は興奮しました。まさか、あのステージに立てるとは思っていなかった分、嬉しさは半端ないものでした。一昨年、去年と観客として見に行き、迫力あるステージに圧倒され、この舞台に立ちたいと願っていました。決まってからの私達は必死に練習しました。

そして1日目、あいにくの雨。女性ハウスの仲間も急遽来られなくなってしまいました。私は泣きそうな位の緊張で言葉も少なく、汗だくでした。一発目のメインステージでの「ダイナミック」。ガチガチでステージに立ち、一心不乱で踊り始めました。雨のため床が滑り、序盤でずっこけてしまった私。そのおかげで少し吹っ切れ、なんとか踊りきりましたがボロボロでした。2曲目の「ミルクムナリ」は全員で息の合った演舞ができました。1日目の反省としては、色々ありましたが、それを2日目に生かそうと思いました。

2日目は天気も良好で、3曲やるのにはいい日でした。「三線の花」で気持ちを高め、「ミルクムナリ」で勢いをつけ、ラストは昨日のリベンジの「ダイナミック」でした。観客の数が凄すぎて、見てはいけないと決めました。結果は最高でした。小さなミスはあったけれど、上出来でした。道を歩いていると「良かったよ」とか「凄いね」の声。また泣きそうになりました。

何かを続けることができなかった私が、このエイサーは続いている。エイサーのおかげで色んなプログラムができ、回復につながっているということが分かりました。息子もエイサーをやっていて、しかも「ダイナミック」ということもあって、今回出られたのが嬉しかったです。また来年もあの舞台で踊りたい。いつか息子にも見せたいと思っています。夢のような2日間でした。

ピノコ
感想文**慰問とは違いお祭りでの演舞は
最高に楽しかった**

全国から集まる“よさこい祭り”の祭典「舞ぶっちゃげ祭り」に、今年初めて潮騒JTCの鹿嶋琉球太鼓(エイサー)がお披露目できました。まずはエントリー参加できたこと、祭りに向けてのチーム一丸となつての練習、そして出場。メインステージと東パレード、西パレード、2日間で5回演舞ができました。

初日は朝から雨で、「どうか踊るときはやみますように!」「女性ハウスの仲間が来られますように!」と願っていた私ですが、あいにくの雨模様。女性ハウスの仲間は

楽しみにしてくれていて、見せられずにいたけれど、メインステージは旗持ちをしながら歌を歌い、かけ声、後ろから踊っている仲間達に「頑張れ!頑張れ!」とエールを送り続けました。

2日目は西パレードでの「三線の花」、東パレードで「ミルクムナリ」、最後はメインステージでの「ダイナミック」。2日目の方がお客の入りが多く、もっと踊りたいなという気持ちになり、満足感があり、とても楽しかったです。他団体のよさこいも格好よく、曲の構成もよく、来年も出場できるとなったら独自の6分間の曲を作り、踊りたいとの欲も出ました。反省会でのビデオを見た時、もっともっと向上したい、先行く仲間に追いつけるように、キレとため、表情、踊り、たくさんの課題点が見つかりました。

今までのデイケア、老人ホームの慰問とは違いお祭りでの演舞は最高に楽しかったです。そこに出来るまでに教えてくれた仲間感謝です。これからも特別プログラムのエイサーで、私の薬物依存症の回復の糧にしたいです。エイサー隊に入れて凄く嬉しかった2日間でした。次は鹿嶋祭り、て〜ら祭、最終目標の潮騒13周年フォーラムに向け、向上心を忘れずにこれからも練習を頑張ります。

あきら
感想文**この仲間達で来年も
「舞っちゃげ祭り」に出たいと思う**

初日は朝から雨降りでしたが、雨天決行だったため太鼓をラップで巻き、出ることになりました。最初は「ダイナミック」という曲で、私は旗持ちでした。迫力があり、達成感がありました。その後「ミルクムナリ」の踊りで、私は精一杯踊りました。この祭りのために、私達エイサー隊は毎日練習を重ねてきました。感動、それと喜び。社会では、まず続けるといったことが出来なかったこと、踊りなど興味がなかったのに、今はエイサーが凄く好きです。

この日は色んなところから“よさこい”グループが来て迫力があり、私はこうなりたい、ステージに上がり笑顔でいたいと、ずっと思っていました。役割を終えて反省会。まだまだ興奮している私に「あきら、足がいつもより上がっているね」。一人の仲間が声を掛けてくれました。私はエイサーをやっていてよかった、本当に頑張ったこと、自分に感謝できた瞬間でした。これからもエイサーを続けていきたいし、また来年もこの仲間達(エイサー隊)で「舞っちゃげ祭り」に出たいと思いました。本当に感動、達成感があり、楽しかったです。



実りの秋を迎え、潮騒 JTC 農業隊は猛暑の続く9月3日から、鹿嶋市内や潮来市内などの潮騒田んぼで稲刈り作業を行いました。今年のコシヒカリの総作付面積は約4町歩(約4ヘクタール)。黄金色に実り、頭を重く垂れた稲穂が田んぼを渡る風に揺れるなか、コメ作り(稲作)リーダー・ヒコさんの運転するコンバインが大きなエンジン音をあげながら、次々に収穫していきました。

潮騒では、約5年前から入寮者や通所者の就労支援策として農業に力を入れた独自プログラムに取り組んでいます。当初は施設内での自給自足を目指し、放棄農地や田んぼを借りてスタートしました。その後、入寮者や施設の増加などに伴って野菜やコメの消費量も年々増加したために、作付面積も徐々に拡大。今や大規模農家をしのぐほどとなり、潮騒グループの胃袋を支える重要な存在になっています。

農業隊のメンバーは通所者を含めて現在27人。新潟県出身で稲作経験豊富なヒコさんの指導を受けながら、一緒に作業を行っています。春先には代掻きや苗床作りに汗し、今年は5月に田植えを実施。一部の田んぼでは田植え機に頼らず、手植えをした水田もありました。農業隊のメンバーらは、夏場に水の管理や農業調整などの作業を行うなど、稲の生育を見守ってきました。

今年は梅雨時期に雨が少なく、その後も猛暑が続いたためコメの出来を心配する声も聞かれましたが、1反歩(10アール)あたり平均約8俵(1俵60キログラム)前後と上々の収穫になりました。ヒコさんは「真夏日が続いた

ため糶(もみ)の皮が少し厚く育ち過ぎ、コメ粒は少し小さめ」と感想。無事に稲刈りの時期を迎えた農業隊のメンバーらは「自分たちの作った最高の新米を食べるのが楽しみ」と、収穫の喜びに浸っていました。

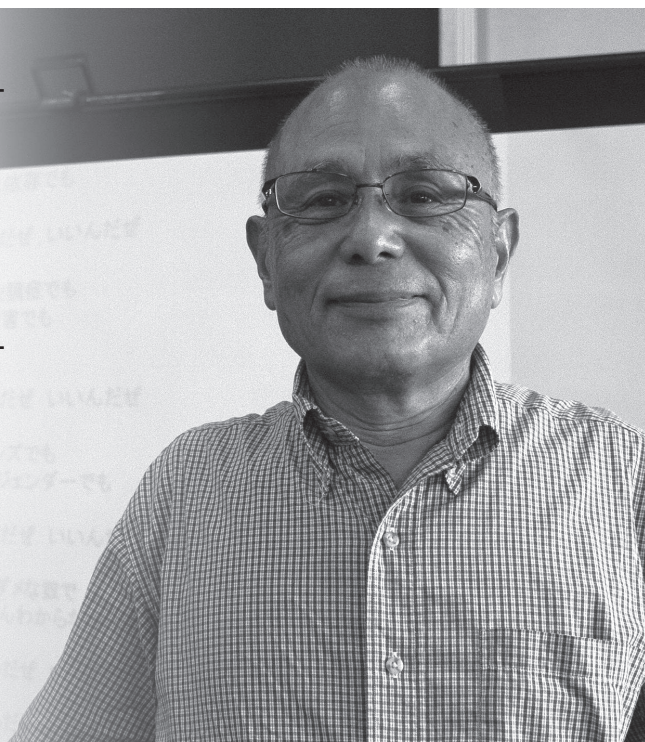
7日に行われた鰯川沿いに広がる潮来市潮来の田んぼでは、4人のメンバーが収穫作業に従事。ヒコさんがコンバインで刈り取ったばかりの籾を運搬専用のトラックに移し替えると、サポートメンバーらが乾燥機や脱穀機などが置かれている猿田農場(鹿嶋市猿田)との間を何度も往復して運び込みました。

18日には、昨年からの試験的に始まった昔ながらの伝統製法で作る「わら納豆」で使用される藁苞(わらづと)の原料になる稲わらを収穫する、今年最後の稲刈りが行われました。約2・5反歩(約25アール)の田んぼでは、午前中から刈り取りと結束を同時にするバインダーと呼ばれる機械で稲刈りが行われ、午後はヒコさんが運転するコンバインを使って結束された稲を脱穀。コンバインに稲の束が投入されると籾を落とした藁束が次々にでき上がり、メンバーらが昔から行われてきた自然乾燥の、おだ掛け作業に汗を流しました。天日干しされた藁束は施設の倉庫で保管されて藁苞に加工されます。農業隊リーダーのヒトシさんは「昨年収穫した藁で作った藁苞が色々なトラブルがあって8月にやっと納品できた。昨年は約5反歩(50アール)の試験的取り組みだったが、今年は約4倍の藁を収穫した」と話し、新規事業による収益に期待を寄せていました。(岩)

潮騒 人間塾

城間 勇さん
(リカパレ東京実行委員長)

社会の誤解と偏見を正すのは
当事者と家族の責任



「リカバリー・パレード『回復の祭典』in 東京」実行委員長の城間勇さん(75)をゲスト講師に迎えた第5回「潮騒人間塾」が8月24日、鹿嶋市まちづくり市民センターで開かれました。重症のアルコール依存症だった城間さんは、潮騒でも取り入れている「リカバリーダイナミクス(RD)」を米国で本格的に学び、これを回復プログラムにしたリハビリ施設を横浜で運営する傍ら、依存症を始めとする精神に関係する障害者の回復擁護を訴えるリカパレ運動の普及に尽力しています。この日はパワーポイントを使って自身のアルコール依存体験と回復の歩みについて講話し、後半ではリカパレ運動の持つ意味に言及しながら潮騒の目指すアディクション・ビレッジ活動にも意義を与えてくれました。

城間さんは、アルコール依存症によって40代の10年間に7回入院したものの、最後には失職し離婚を経験しました。7回目の入院中にアルコール依存症の自助グループAAにつながり、現在まで24年間断酒中です。11年前に黒人のアルコール依存症回復者、故ジョー・マキュー氏に出会い、彼が考案した回復施設用のカリキュラム(RDプログラム)を渡米して学びました。マキュー氏が著した書籍を依存症からの回復研究会で翻訳、出版しています。現在は回復施設「NPO法人・RDP横浜」代表を務め、10年前から日本でも取り組まれている新たなムーブメント、リカパレ運動の普及にも力を入れています。

両親が居酒屋を経営する生活環境の下で育った城間さんは、酔客のリアルな姿や両親の不和などから小学6年の時に「酒は一生飲まない」と決めたと言います。しかし、21歳で初めて飲酒した時にはとても幸せな気分になり、依存症の資質を開花させます。30代前半からは独りで飲むようになり、依存症を悪化させて飲酒と断酒を繰り返し、「らせん状にゆっくり落ちていく」アル中人生を歩み、不安と自己憐憫を抱きながら最後は「泣きながら飲んだ」と語り掛けました。

しかし、最後の入院となる50歳のときに病院の保護室で「これまで何度もやめようと努力してきたが、もう一人では無理。自分が生きていくためには助けが必要」と底つきし、自助グループに繋がるターニングポイントを迎えます。以来クリーンを積み重ねてきた体験から、回復には①自分の現在(位置)を知る②変りたい目標を持つ③行動を起こす—の3要素が必要で、これは「無力を認め」「自分を超越する大きな力に委ねる」12ステップの生き方に通じることを解説。「私達は終わりのない旅を生きているが、どんな高い山でも仲間となら越えられる」とメッセージしてくれました。

後半ではリカパレ運動について、「日本には依存症とか精神の病を持つ人たちが数百万人いる。彼らが誤解と偏見の誤った考えのなかにあるのは、いわば社会そのものが闇を持ち病んでいるから。これを正すのは当事者である私達や家族の責任であり、まず自分を取り巻く小さな社会から変えていくこと。これから依存症になって苦しむかもしれない人たちに、ちゃんと顔と声を出して“依存症は回復できる病気”“私達がその証拠”と胸を張って訴えよう」と述べ、潮騒リカパレの取り組みに勇気と希望を与えてくれました。(み)

がーちゃんの 極私的懺悔録

「他人事だと思って…」

その
7

役所の手続きに振り回され
国保加入もままならず

【PRめいた著者プロフィール】

- ❖ アノニマスネーム「ガーゴイル」(36歳/男性)
- ❖ 出身：北関東の田舎町
- ❖ 前職：元詐欺師(自称)のような仕事&元介護福祉士
- ❖ 病歴：鬱病・発達障害・自閉症・
各種依存症(薬物・アルコール・女性・対人関係 ets)



(前回からの続き)私は仕舞い忘れの炬燵のなかでガタガタ震えながら、自らの因業(注:宿命的に不幸なこと)を呪い、酒をあおっていた。時刻は午後3時、真つ当な人間なら勤め先で忙しく働いている時間である。なのに私ときたら、勤め先での多忙な時間など遥か彼方に飛び去り、満足に用も足せず糞小便で汚れた和式便所に這いつくばって、ひたすら土下座する無為な日々を送っている。

私は腹の底から込み上げるものを感じ、叫んだ。「アイアム・アンチクライスト」「アイアム・アナーキスト」「気に入らないものはすべてぶち壊す」「楽しむためならナチの尻にでもキスしてやるよ」「俺はアナーキスト!」などと、セックス・ピストルズの曲をたわけた歌詞にしてポゴダンスをキメている。

すると、やはり得体の知れない何かが込み上げてきた。急ぎ便器に土下座すると、真つ赤な血が口からほとばしった。その瞬間、私の体は凍り付いた。覚悟していたとはいえ、目の前に自分の鮮血を見ると急に命が惜しくなった。「俺はアナーキスト」「あいつのアナに入れるまで死ねない」。そのフレーズも空しく、諦めて病院に行くことにした。

毎月2万円を行きもしない病院代に 浪費するなんて…

ただ、私には病院に行く前にしなくてはならないことがたくさんあった。まず病院に行くには健康保険証なるものが必要になる。毎日、真面目に会社に行っている

勤め人なら社会保険証が“支給”される。月々の給料から2万円ほど自動的に引かれるが、その分3割負担で医療の恩恵が受けられる。いざとなると、ごつつい便利なものである。

しかし私のような、その日その日を肥溜めに捨てているような、無職の人間は何の恩恵も受けることができず、病院にかかる場合はすべて自己負担となる。もともと社会に適応できない人間がカネなど貯められるはずもなく、多くの人が貧困と病苦で痩せ細って死んでいく。怖いことである。なので私は、恥を捨てて市役所にテクテク歩いた。

とにかく国民健康保険(国保)に加入すれば、医療が社会保険と同じ金額で受けられる。私には「やったじゃん、すごいじゃん、これでハッピー!」とは思えなかった。だってさあ、毎月2万円を支払わないといけないのですよ。なのに今、ウチの家計は火の車。今月は行き付けのキャバクラでお誕生会に参加し、ドン・ペリニヨンとChloeのバックを購入するので、少なく見積もっても50万円はかかる。それを月々2万近く、行きもしない病院代に浪費するのはいかにがなものか…。

しかし、あれから私の吐血は止まらない。トランキライザーの副作用もあって体調不良この上ない。私は「しょうがねえ、背に腹は変えられねえ」と独りごちし、ヨロヨロと久し振りに愛車フィアットに乗り込んだ。ご主人様の体調とはまったく関係なく、車のエンジンは快調だった。

私のような癖のある、せせこましい生活をしている人

間には分からないが、人に対して不快な思いをさせたり、肉体的な苦痛を与えて金子を儲け、蓄え、巨万の富を得ている奴等がこの世にはいる。でも、商売でいうならピンサロやソープランドをみても分かるのとおり、サービスを提供される側が求めることは「気持ちいい」「嬉しい」「楽しい」の三快楽。これに反する商売は左前になり潰れて当たり前なはずなのに、何にでも例外があるのが世の常で、人をコケにして金儲けをしている輩も少なからず存在する。それが現代という時代なのである。

呪われよ、偽善の市役所、 そして受付のオバハン！

時として貧乏人に、そうした理不尽な顔を見せるのが、役所かもしれない。まず役所に行く際には、手ぶらで行ってはいけない。役所に入ると大体左手に受付があり、担当が「何かようか？」と聴いてくる。ここで用件を伝えると「～番窓口へ行きやがれ！」と言われるので、そこに行くと問題が解決する場合が多い。

ただ受付のオバハンにも種類があるようで、「何かようか」と聞いてくるにもかかわらず、一向に「～番窓口へ」と案内しないオバハンもいる。「なぜ、そんな意地悪するのか？」と問うても、単に年増の“受付嬢”だけで役所の知識がない無能のオバハンが座っていることが結構あり、少しも要領を得ない。そういうオバハンは、こっちがいくら説明しても相づちを繰り返すのみ。「左様でございますか」「もう少々お待ちください」とお茶を濁すだけ。

こっちが「もういいです！」と怒りを爆発しそうになると、別のオバハンが出てきて希望する窓口に連れて行ってくれる。ここまでくると私の精神的なエネルギーは底をついており、大事な手続きをしくじったり、大損こいたりする。「呪われよ、偽善の市役所、そして受付のオバハン達！」である。

私は、このオバハンたちからしこたまダメージを受けつつ、国保に加入すべく(碌)と書かれたプラカードが引っ掛かった、煤けた窓口に突入。ここでも私はヘトヘトになるまで小突き回された。「すいません、国保に加入…」と言う間もなく、相手は「ハイ、これに記入してお待ちください」。一方的に言葉を遮られた私は怒りで殴ってやろうかと思ったが、周りに人がいたため一応こらえることができた。しかしこういうことを何回もやられると人間同士のコミュニケーションの限界を感じ、「核戦争で滅びればいい地球」と思ってしまう。

経済活動に参加できるのは 巨人帽を被ったおっさんだけ

まあ、こんなことでめげては手続きが進まない。私は洗面をつくり、ペラペラの紙に官姓名を記入し、“遮りオバハン”に手渡してスポンジのはみ出した chair に腰掛け、呼ばれる順番を待った。周囲には、この役所と同じ煤けたような人々ばかり。巨人軍(ジャイアンツって軍隊なの?)の帽子を被ったおっさん、ギャーギャー喚くガキを放っておいてスマホをいじっている水商売風の外国人女性、手拭いでほっかむりしている婆…、私はこの国の未来を憂いた。この三人のなかで日本という国に税金を払って経済活動に参加できるのは、手拭い婆でも外人ホステスでもなく、巨人帽を被ったおっさんなのである。これでは国が傾くのも無理はない。このおっさんが傾く日本を支えられるのか？いくら「巨人」でもこれは無理。ひいきの球団は応援できるかも知らんが、このおっさんにとっては日本の今後など興味の外だろう。翻って私はどうなのか？そう考えていると名前を呼ばれた。

敵は「健康保険喪失証明書 お持ちですか？」だと

「ご印鑑はお持ちですか?」。そ～らきた。わたしは用意していた印鑑を出し、書類にスポポンと捺印した。「お顔が確認できる身分証お持ちですか」。ほうら、またきた。わたしやね、車できてるんですよ。免許証を常に携帯していますよ。馬鹿者めが!と心のなかでつぶやきながら運転免許証を提示する。ここまでくると手続きなんて終わったも同然。もし手ぶらでできていたら、やらなくてよい手間を三つも四つもしなければいかん。その手にはのりませんよ～だ。

私が得意になって「ふんふん」していると、敵は「健康保険喪失証明書をお持ちですか?」「年金手帳をお持ちですか?」「できればマイナンバーも…」ときやがった。私は虚を突かれ、ひっくり返りそうになった。私はそれら全てをお持ちではなく、その存在すら知らない。だが、ここで弱気になってはいかん!

私は激昂し、「お持ちお持ちって、餅は正月が出番だろうが、ばか野郎!」「こんなくそ暑い真夏に食べるのは、ぜんざいか何なかだろう!」「入ってる白玉は小麦粉。餅米とは関係ねーんだよ!」「ふきのとうみたいな顔しやがって、ぼけなすが!」と啖呵を切った。そして近くのパンフレット台を蹴飛ばし、帰り際に「二度と医療機関の世話になってやるもんか!」とイタチの最後っぺをぶちかまして家路についた。

(以下次号に続く)

受刑者からの手紙

自分の覚醒剤レベルを分析しつつも分からない点が多い

お返事有難うございました。(施設紹介の)パンフレットも大変興味深く読ませていただきました。私は7年前に覚醒剤使用により逮捕(初犯)され、今年同じく逮捕されました。正確には、初犯時は所持・使用、今回は所持で起訴となっています。今回刑事施設に収容されながら、自分で薬物についての本を読んだり、シゲさんの様に治療共同体に属する方と連絡を取り情報を集められるだけ集めています。偶然でしょうか? センター長の栗原さんが書いた手紙とシゲさんからの手紙が別々に届きました。

私は覚醒剤について、①使用への強い願望・欲求はない ②薬物使用の開始・終了は自制出来る ③禁断症状、離脱症状は経験無し ④薬物の使い始めは少量だったが、最初に味わった快感を得るために薬物の量が増えることはない(常に決まった量) ⑤物質を使用すること以外への興味が薄らいでいく、についてはよく分かりません ⑥身体的・精神的に有害な結果が起きているにもかかわらず、物質の使用が止められないことはない(毎日だとか毎週だとかは、怖くてできない、嫌な気持ち)——という認識を得ています。WHO制定のICD-10(精神及び行動の障害)を自分で見た結果です。これにより私は渴望・耐性・薬物探索行動があるとは言えない状態です。

今回逮捕された時に「カウンセリングのようなものを受けなければいけないな…」と思いました。こんな私はどうしたら良いのでしょうか? 自助グループに通うことは大切と言葉が様々な本に書いてありました。ASK(アスカ)さんが記した本に、アディクション関連の相談先(日本全国)が載っている本があります。東京にはたくさんの薬物関連の相談ができる医療機関があることを知りました。自分は「まずそういった病院に行って、自助グループを紹介してもらって…」と考えました。しかし、DARC(ダルク)のような治療共同体(中間施設)の方々と手紙のやりとりをしていくなかで一番良いのは何か? どうするのが良いのか? がわからなくなってきました。私と同年代の利用者の方はそちらにはいるのでしょうか? 送ってくださったパンフレットにはどのような活動をしているのか、うかがうことができました。気になったのは、実際にどのような職に就く方がおられるのか、お教えいただけないのでしょうか? 全てを知って、様々な団体の情報を集めて決めたい、と考えています。自分としては「こう生きていきたい」といったことは有りますが、そういった事は忘れてプログラムに専念するべきでしょうか。シゲさんからご意見をいただきたいです。

(東京都 K・S)

カズ選手に習い私も「一日一番どすこい!」で頑張る

シゲさん、お元気で何よりです。私も元気です。裁判は終わりました。長かったです。今まで心配してくれてありがとうございました。シゲさんのことは忘れません。潮騒通信でバーベキューのご様子を拝見しましたが、とても美味しそうですね。仲間が200人も居るのですか? 羨ましいです。こんな私にも何人か仲間が居てこの度も見守ってくれました。潮騒のみなさまに比べたら小さな力ですが、私にとってはありがたいです。シゲさんは3年間一日一日を大切に生きてきたから、その努力が実を結んで大きな幸せになったのだと思います。世界最年長のプロサッカー選手、51歳の三浦知良(カズ)は最高の得点のイメージが“ドリブルシュート”だそうです。子供のころからその練習しかしていない、と言っていました。今日もきっとその練習をしているのでしょうね。カズは「ブラジル人はああ見えて毎日サイドキックの練習をしているよ。来る日も来る日も基礎練習」と言っていました。「練習有るのみ!!」は中村俊輔選手のお言葉です。「一日一番どすこい!」は私。いつか私もバーベキューに参加させてください。

(東京都 S・G)

仮釈がもらえるように頑張って、一日も早く出所したいのが受刑者の皆さんの共通する心情でしょう。潮騒では受刑生活も当事者の回復に向けた試練のプログラムと考えています。焦らず着実に自分を見つめ、自己改革に努めましょう。受刑者の皆さんに光あれ！

やはり潮騒に入寮したいので 色々教えてください

お変わりありませんか？私の方はいたって元気に過ごしています。すっかりご無沙汰いたしていますが、この度は突然のお願いがありペンを執りました。それは、やはり「自分がギャンブル依存症を治すために潮騒 JTC に入寮できないだろうか？」ということです。私が刑務所に入ったきっかけは、ギャンブルなのでこれを最後にするために、真剣に考えました。以前入所が決まっていたのに断った理由は、色々と不安などがあり迷惑をかけてしまうのではないかと私のなかで迷いが生じて断ってしまった訳です。しかし、ここで治しておかなければ一生刑務所暮らしになってしまうと思い考え直しました。ですので、宜しくお願いいたします。

そこで入所するに当たり、分からないことがありますので教えていただけないでしょうか。不安を取り除く意味で教えていただけたらと思います。まず一つは集団生活だと思いますが、私は人付き合いが苦手な所があります。大丈夫なのか心配です。それと部屋は単独室ですか？私としては単独部屋にしてもらいたいのです。それから一番気になることは、私自身お金がないのですが大丈夫でしょうか？色々とお金がかかる様ですので心配です。少しでも心配事をなくしていきたいと思っています。詳しく教えていただけたら、と思います。宜しければパンフレットを送っていただけないでしょうか。

(長崎県 K・K)

満期出所したいが潮騒の 受け入れは可能か？

栗原センター長、お元気ですか？こちらは暑さのピークも過ぎ、過ごしやすい毎日が続いています。気温も20℃～25℃位で、朝晩は涼しい位です。さて、先日センター長から暑中見舞いが届き、嬉しく拝見いたしました。ご丁寧にありがとうございました。ここでは5連休の盆休みがありました。一日中TVが点いて、布団を敷いて横になれたので、ほとんど寝ていました。ゆっくり身体を休めましたが、何だかだるいです。薬も就寝薬（眠剤・安定剤）は全てやめましたので、体の調子が良いです。残刑6ヶ月間頑張ります。

そこで栗原センター長に相談があります。現在柄受けはセンター長で決まっているのですが、満期で出所したいです。出所したい理由は特にありませんが、満期で出所しても潮騒ジョブトレーニングセンターでお世話になりたいのですが、可能でしょうか？「仮釈で一日も早く出所して…」とも考えたのですが、再犯が恐いのです。だから「満期だったら気楽かな…」と考えていますが、どうでしょうか？満期でも引き受けていただけるのでしたら、出所前に今領置してある荷物を送りたいのですが、預かっていただけますか？もし満期で駄目なら、仮釈で出所する事も考えます。いずれにしろ受刑生活は落ち着いて無事故で頑張ります。

(北海道 A・T)

委員面接が有り今まで以上に真面目な気持ちで頑張る

栗原センター長始め、スタッフの皆様お元気ですか？私もひたすら回復へと邁進しており、毎日が充実していて元気に頑張っていますので、安心してください。つい先日、委員面接がありました。少し嬉しくもあればとても不安な気持ちです。このような私にでも面接が掛かることは、担当さんや皆さんのお陰と深く感謝しております。また一歩前進しました。次回の面接の日はわかりませんが、近くにはあると思っています。これから今まで以上に真面目な気持ちで頑張って参りますので、安心していてください。

(東京都 K・K)

しおさい、俳壇

9 月のお題 稲刈り

選者 桐本石見

人生は 60 歳からでもやり直せる！ No.56 センター長 栗原 豊

自分でも意外なほどスムーズにダルクに馴染みつつあったが…

当時、千葉県松戸市にあった千葉ダルクにつながった私には、それまでの生き方とは対極にある世界にカルチャーショックを受け、違和感と抵抗感が交じった複雑な感情が否めなかった。しかし、すでに還暦を迎え「白旗を上げる」状態だった私は、意外なほどスムーズに施設生活に馴染んでいく自分が感じられた。日々のシンプルな生活が少しずつ私の心を溶かし、今後の新たな人生を目指す自分が通過しなければならない運命の「居場所」のように思われた。「ああ、これこそ私が求めていた本来の生き方かもしれない…」そう感じ始めていた。

仁義や虚勢に身を削り、命を危険に晒してきた過酷な生活。快楽に身をまかせ、ときにむさぼり、そして気づけばアルコールとクスリの罠から抜けられない体になっていた狂った人生。しかし、漂着したダルクには、ありのままの私を受け入れ、毎日クスリなしで「生きる」ことを最優先にする仲間との時間があつた。幻聴と幻覚から離れ、クスリなしで完全に孤独の世界の住人ではなくなりつつある自分を意識できるようになってきた。私は不思議な安堵を感じたが、同時に限られた少額の金銭をどう扱うかに楽しみを見出している自分にも気づいた。驚くほどの生きがいや、また力みすぎてきた生き方から肩の荷をおろし、深く呼吸しながらの時間があることを実感しつつあつた。

ダルクは使うも使わないも本人次第のドラッグフリーな空間。些細なところに誘惑が転がっているのも事実だ。ダルクは日中の外出においても、その理由や細かいアルコールや薬物への監視の目はない。監視するならば、刑務所と同じだ。彼らは仲間とともにクスリをとめるために施設にいる。もし、もう一度クスリやアルコールを始めてしまう「スリップ」の罠にはまってしまったとしても、またやりなおせばいい。ゆえに、ここでは誰からも「酒を飲むな」「クスリをやるな」という指示はない。

入寮して数週間が経過したころ、ある用事でダルクの先輩メンバーと病院に行く機会があつた。その際、仲間が自販機で買った缶ビールを一本、ご馳走してくれた。この時は不思議と抵抗なく飲んでしまっていた。しかし出所直後のような連続飲酒トラブルには陥らなかった。もちろん、そのメンバー以外、その事実を知ることはなかったが…。今ならその行動を、まだダルクでの回復に全力を注いでいない表れと、私は冷静に回想することができる。そんなクスリを止めることへの「意識の軽さ」は、小遣い稼ぎという形で私の心を疼(うず)かせることになるのだが、それは次回に。

佳作

うまいなあ新米むすび身に沁みる	よっちゃん
蜻蛉舞ふ田空の晴や稲を刈る	あきら
晴天に家族総出や稲を刈る	ちゃこ
虫達も豊作祈った稲刈りよ	ピノコ
稲刈りやクーラー気にお茶代り	しま

頭垂る昔も今も稲を刈る	みく
稲の香は去年と違う思ひかな	こば
仲間等の手しおにかけし稲を刈る	ひろ
ボロボロの位牌に語る敗戦忌	ゆたか

特選句

利根の田の
黄な広がる
稲刈り日

くま

利根川は群馬県大水上山に源流を発し、銚子河口までの約三百二十キロの間の流域に約三千九百平方キロの田畑があると言われる。能登の千枚田や山国の田の稲の稔りも美しいが、この利根沿いの広い田の黄色の稲穂の波は格別で、晴れた日には心豊かになり、稲刈りの秋を思う句です。

特選句

稲刈りの
一族総出も
昔かな

じい

稲作は縄文時代後半から現代まで続いて、明治の後半まで鎌で刈り取る苦勞の作業でした。三河の刀鍛冶の山下つね吉氏が初めて動力式の稲刈機を考案、その後久保田鉄工(株)などが外国の機械を参考にして、今のコンバインに改良したと伝わる。戦後の暫くまでは家族や集落共同で田植や稲刈りをしたのが懐かしい句です。

特選句

夜の校舎
生徒まばらに
虫の声

ゆたか

最近では夜学や通信制で学ぶ人も多い。この詠の学校は田舎町の学校かも、昼間に見る校舎は生徒も多く賑やかだが、暮れると主な校舎や事務所のみ灯りがあるし、生徒も少なくながらんとする。如何にも田舎町の夜間学校を思う句です。

秀逸句

今月の秀逸句

軍手して
稲を刈る祖父なつかしき

めい

軍手は江戸時代末期鉄砲を素手で触ると錆びるので使われたのが始まりで、明治時代に軍用として広がり、そのために軍手と名が付いたとも。今では各種のゴム製手袋があるが、一般の作業は軍手が使われる。その軍手に稲刈りの祖父を懐かしむ。

陽の恵み
たわわに稔る稲田かな

れいこ

植物の芽が出る条件に、温度、水、酸素があり、温度は太陽、酸素は空気でもあります。五月の田植から九月の稲刈りまで、その三要素や肥料、人の世話などで稲も育つ。また人の世界も諸々の援け合いにあるを思う句でもあります。

晴天や
嫁ぎ初めて稲を刈る

めーてる

今では鎌での稲刈りは少ないが、この詠は作者の若い頃のか、または稲刈機か。最近では農村へ嫁ぐ方が少なくテレビなどでも募つてもいる。都会から嫁いだのか、夫の実家が農家なのか、初めての稲刈りに緊張もするが、家族が揃い楽しく明るい句です。

敬老の日
なれど我は稲を刈る

あべ

敬老の日は九月第三月曜日だが、それでも晴天なので稲を刈ると言うのも俳諧の句で面白い。敬老の日は昭和二十二年の兵庫県野谷村の敬老会が始まりと言われ、養老の滝伝説に因み九月十五日であったが、今の様になった。

稲刈るや
心の病ひ治るごと

ひろ

病気には身体と心の病があり、身体には手術や薬も多くあるが、心の方はなかなか難しい。都会の生活に疲れて農家をやる人も多く、耕し、種から何かを育てると、そこに自然の偉大さも学び心も癒される。懸命に稲を刈り病の回復も思う切々とした句。

稲刈るや
案山子誠におご苦勞

なん

案山子は、昔は嗅しで動物の腐乱して句う物であったとも。その内に人形や音の出る物など各種出来たが、効果は今一なれど農村の風物詩で呪いの様な物。今では案山子祭などある。稲刈りで役目も終わり、お礼を申し上げるのも俳諧です。

どっこい

私も生きてます～我が回復記～ 「アル中のシゲ」の巻

第3回

身内の死で生命保険の大金が入り豪遊三昧の生活に

私は妻や父、叔父とかげがえのない身内を次々に失い、世をはかなむようになりました。生きる気力を失い、酒量がどんどん増え、仕事もやめざるを得ませんでした。そんななか、予期せぬ形で父や妻の生命保険金が入り、なんと私は5千万円もの大金を手にしたのです。これが間違いの元でした。酒飲み仲間を誘ってはスナックやクラブなどに繰り出し、派手に遊びまくりました。私は仲間を支配して、鬼の首を取った様な行動を続け、「お金があれば何でもできる!」と錯覚していました。高級車、高価な洋服、時計、靴など贅沢三昧の生活でした。癒されない寂しさをまぎらわすためにお酒に頼る以外なかったのです。

結局、私は毎日お酒を飲み続けて自分自身を強く見せかけていたのです。本当の自分は気が弱く、人に流されやすい性格で、お酒の力を借りて生きていました。当時は朝から飲み始め、夕方になると酒飲み仲間に電話して、「俺の家に今から来い!」と命令し、仲間たちと自宅でドンチャン騒ぎ。夜8時ごろまで家で飲んで、その後はタクシーで繁華街へ。そしてスナックやクラブで豪遊三昧です。店のホステスには万札をバラまき、ウソ八百を並べ、自分は偉いのだ、と見せかけていました。毎日、狂った頭で他人をコントロールして、ゆがんだ自己満足感を味わっていたのです…。(次号に続く)

9月のバースデイ

せら



ありがとう

なか



感謝

おか



よお

こたろう



元気

すみ



フィ

ちょー



元気かー

もん



早く出せ!

ただ



ただ、ただ感謝です。

かーと



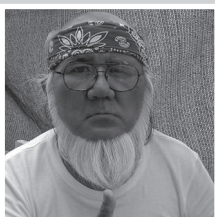
古株になりました。

こう



思案中

つる



幸せです。

べが



ファイト

まさお



今日一日

INFORMATION

潮騒リカパレ in 鹿嶋

10月8日(月・祝) 開催!

既報の通り潮騒JTCは“仲間達みんなで回復の喜びを分かち合おう!”をモットーに、昨年に続き第2回「潮騒リカパリーパレード『回復の祭典』in 鹿嶋」を開きます。告知では実施日を10月7日(日)としましたが、この日は鹿島神宮で「第10回日本古武道交流演武大会」があり、参拝客や見学者で混雑することから開催日を翌8日(祝日・体育の日)に変更します。ご注意ください!

9月の行事

- 9月8日 潮騒人間塾(講師/坪倉洋一さん)
- 9月9・15日 秋元病院メッセージ
- 9月13日 潮騒俳句会
- 9月15・16日 かみす舞っちゃげ祭り 2018(第9回)
- 9月16日 リカバリー・パレード in 横浜
- 9月17日 デイサービスセンター母里(もり) 敬老会&運動会
- 9月18日 農業隊の稲刈り&稲わら収穫作業
- 9月19日 潮騒交通職員・スタッフ安全運転講習会
- 9月23日 リカバリー・パレード in 東京
- 9月23日 潮騒家族会
- 9月30日 潮騒アディクションセミナー

10月の行事予定

- 10月8日 潮騒リカバリーパレード in 鹿嶋
- 10月11日 潮騒俳句会
- 10月13日 潮騒人間塾(講師/田代まさし氏)
- 10月14・20日 秋元病院メッセージ
- 10月20日 エイサー演舞 水戸しまナーシングホーム河和田
- 10月21日 潮騒家族会
- 10月27・28日 第28回鹿嶋祭り

献金・献品を頂いた方 (9月15日現在)

・内堀 高良 様 ・安藤 泰子 様

今月も献金・献品をいただきました。心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。おかげさまで潮騒 JTC は、回復のためのプログラムを実践することができておりますことをご報告いたします。今後ともご支援くださいますよう、なにとぞ宜しくお願い申し上げます。

※その他匿名の皆様からも献金・献金をいただきました。ありがとうございました。

※発送作業簡略化のため、振込取扱票は全員の方に同封させていただいております。どうぞご理解のほどをお願いします。

編集後記という名の独り言

依存症の回復に効果があるために世界中に普及している12ステップを、僕は一種の「信仰療法」だと考えている。疑問の向きもあるだろうが、これ以外に今のところ納得できる理解の仕方がない。まあ12ステップは頭で考えるものではなく、依存症者が「酒を飲まない」「クスリに手を出さない」「ギャンブルをしない」で生きていくために必要な道具(日々の実践の指標)だから、あえて医療にこだわって言えば“見えない精神薬”のようなものかもしれない▼その発祥がキリスト教の影響を受けているからか、ステップの根幹をなす「ハイパーパワー」(自分を超越する大きな力、自分が信じる神)という表現に、ある種の抵抗感や引っかかりを持つ人は多い(僕もその一人)。むしろ太陽や月、水、空気、山、川、岩、そして草木一本にまで霊が宿ると信じる八百万の神信仰、つまり古くからの自然信仰や万物信仰と変わらないと考えれば妙に納得がいく。「信じる者は救われる」かどうかは分からないが、日本人の皮膚感覚には合うような気がする▼今回、潮騒が取り組む第2回リカバリーパレード(10月8日)は、その神道の神を祭る神社で回復を祈願する形を日程に組み入れる。地元鹿嶋の地で行うなら、やはり地の利を生かして鹿島神宮への参拝は欠かせない、という判断からだ。潮騒では毎年、正月に初詣を実施している。「日本建国・武道の神様である武甕槌大神(たけみかづちのおおかみ)を祭神とする」神武天皇元年創建の由緒ある神社にあやからう、というユニークな挑戦だ▼「ダルクの発想に縛れないから、潮騒はどんどん新たな取り組みをし、回復のイメージを広げている」(渋谷ダルクのトムさん)ように、潮騒リカバリーも新たな未来への挑戦となりそう。つい忘れがちになるが、12ステップと12の伝統はメッセージ活動の広がりも、当事者の活動としてうたっている。仲間が増えることが回復にも繋がるからだ。メッセージ活動が政治的な色合いを帯びようになると問題だが、リカバリーを通じて一人でも多くの理解者を社会の中に生み出していくのも大事な取り組みになる▼もはやその方向性は「アディクション・ビレッジ(依存症村)構想」を超えて、障害の枠を凌駕する「リカバリー・ビレッジ(回復村)」ビジョンに向かっていくように思う。(市)

潮騒通信 どっこい生きてます! 2018年9月

Contents

- P② 大規模化による潮騒の多忙な日常を乗り越えて
- P③ 奇跡的な回復を遂げたイトさんが百寿を卒業
- P④ かみす舞っちゃげ祭り 潮騒エイサー隊初参加
- P⑥ 潮騒農業隊稲刈り
- P⑦ 「潮騒人間塾」城間 勇さん(リカバリー東京実行委員長)
- P⑧ がーちゃんの極私的懺悔録 その7
～役所の手続きに振り回され国保加入もままならず
- P⑩ 受刑者からの手紙
- P⑫ しおさい俳壇 9月のお題「稲刈り」
- P⑭ どっこい私も生きてます「アル中のシゲ回復記」/9月のバースデイ
- P⑮ 行事予定 / 編集後記 / 献金・献品 / 目次

■編集・発行:

特定非営利活動法人
潮騒ジョブトレーニングセンター(本部)
〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱 34号
〒314-0006 茨城県鹿嶋市宮津台 210-10
TEL:0299-77-9099 FAX:0299-77-9091

潮騒アディクションビレッジ会館
(潮騒アディクション・ケアセンター)
〒314-0031 茨城県鹿嶋市宮中 4-4-5
TEL:0299-95-9991 FAX:0299-95-9992

E-メール k.s-darc@orange.plala.or.jp
ホームページ http://shiosaidarc.com/





◀ 潮騒の米作りを支える「ヒコ米」の主役ヒコさん